

◎先端医療センターで実施中の診療臨床研究

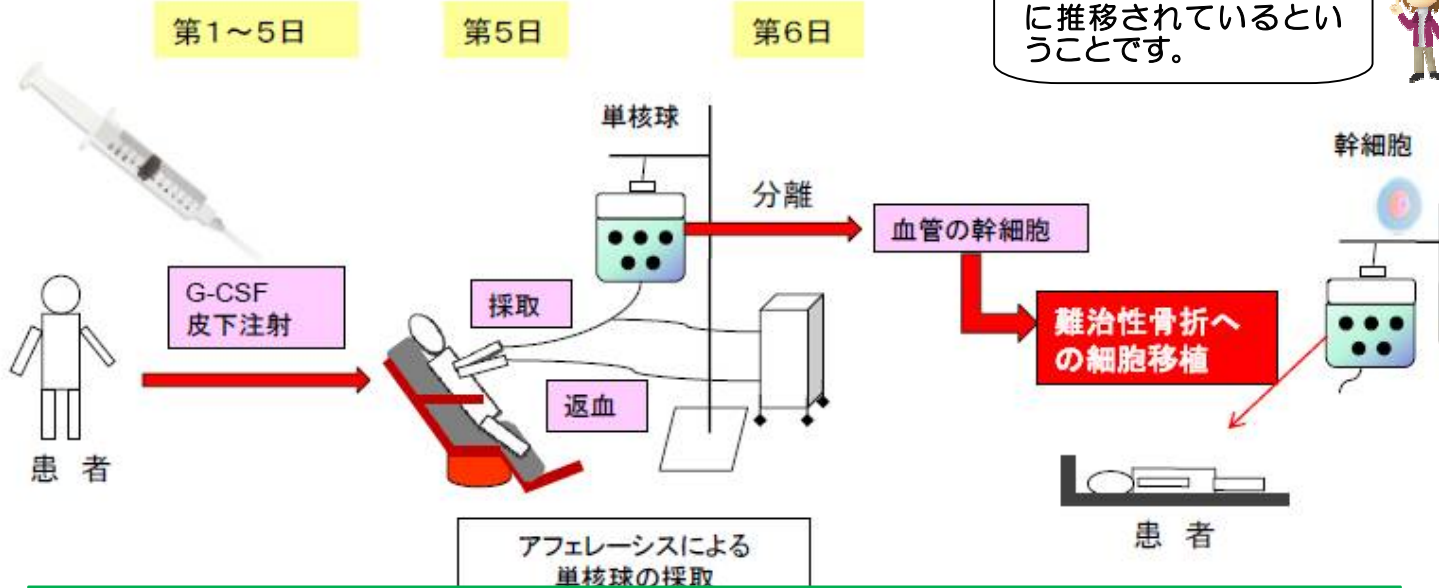
(1) 診療

- 造血幹細胞移植（骨髄移植、臍帯血移植）
- PET やリニアックを用いた診断・治療
- 脳血管内治療
- がんの化学療法
- 多焦点眼内レンズ手術

(2) 臨床研究

- 下肢の末梢血管再生療法
- 難治性骨折の再生療法
- 医薬品等の治験

難治性骨折患者を対象とした細胞移植による骨再生治療

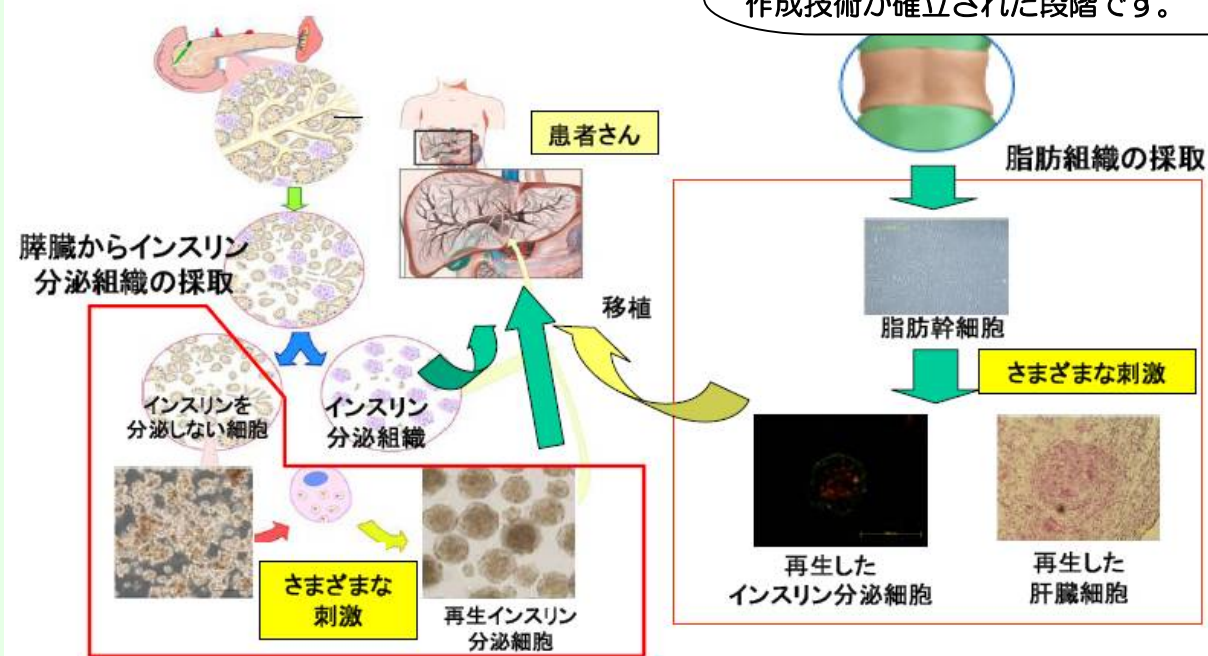


臨床研究の4例は順調に推移されているということです。

対象患者：難治性骨折患者で、骨折部位や年齢など一定の適格基準を満たす方
臨床研究：4例を実施中。17例を予定。

インスリン分泌細胞と肝臓細胞の再生治療

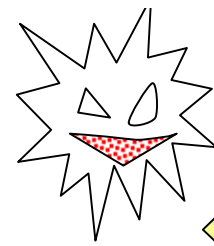
再生インスリン分泌細胞・再生肝臓細胞を用いた糖尿病・肝硬変肝炎の治療戦略



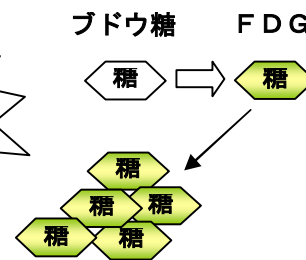
インスリン細胞も肝臓細胞も動物に移植して機能を発揮することが確認できていますが、製造コストの面から肝臓細胞を優先して研究が進められています。現在は前臨床段階にあり、ヒトの皮下脂肪から肝機能を示す細胞の作成技術が確立された段階です。

～用語の解説～ PET

がん



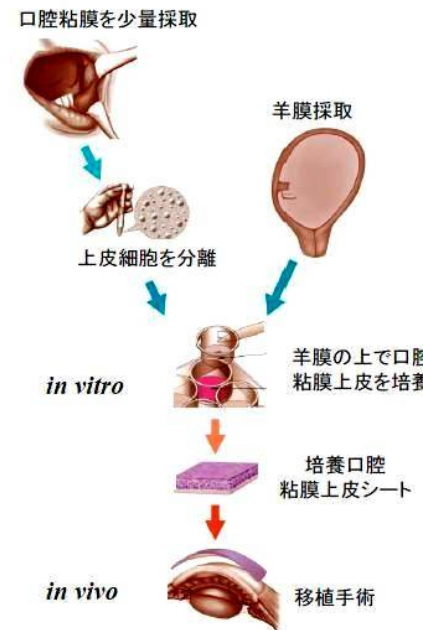
PET 「陽電子（ポジトロン）断層撮影法」



がん細胞は活動が活発なため、ブドウ糖をたくさん消費します。これを利用し、ブドウ糖の一部を放射性同位元素で置き換えたFDGと呼ばれる、化学的な性質の似た薬を注入、がんのあるところでは、ガンマ線が放出され、これを撮影することで映像化します。FDGをあまり取り込まないがん、正常でもたくさん取り込む細胞もあり、PETが早期発見の神様ではありません。

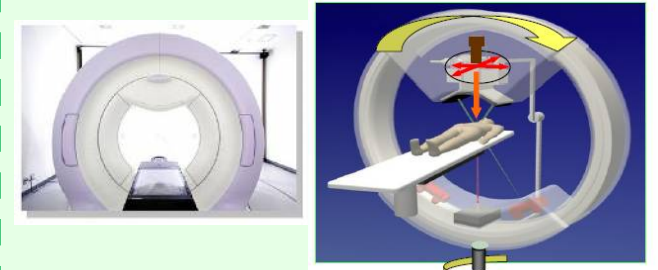
*2010年4月からは、早期胃癌を除く全ての悪性腫瘍に関して一定の条件を満たせば健康保険の適用になりました。

難治性角膜疾患に対する口腔粘膜上皮を用いた角膜上皮再生治療



難治性眼表面疾患とは、やけどなどによる熱・化学外傷などで、高度の視力障害を起し、通常の角膜移植では予後不良になる場合の疾患です。患者さん自身の口腔粘膜から、上皮細胞を採取し、粘膜上皮シートを作成、移植します。

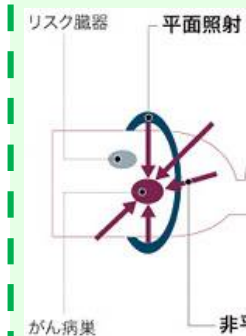
高度放射線治療装置の研究開発



～認可の状況～

- H20.1 製造販売承認を取得
- H20.5 診療を開始
- H22.5 動態追尾機能の製造販売承認を取得

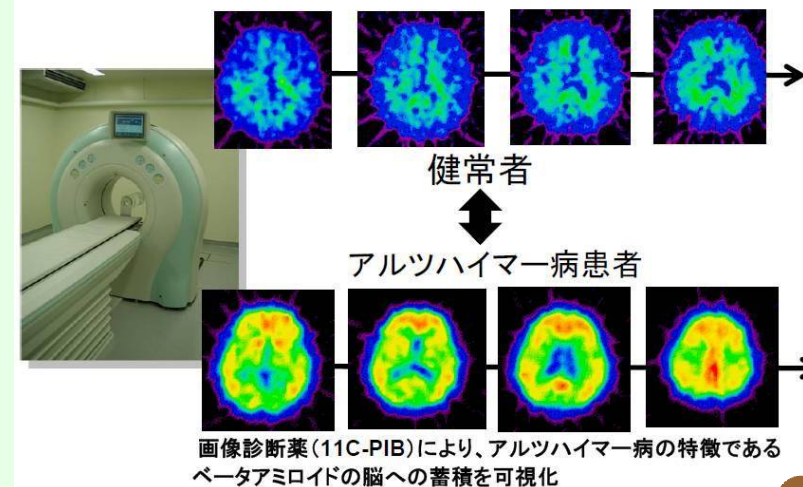
動態追尾機能：肺呼吸や消化器の働きによりゆれ動く患部の移動に合わせて治療線を照射することにより、患部以外の正常部への治療線照射を極力少なくできる。



放射線装置とイメージング装置を小型化して駆動体リングに搭載し患者のベッドを動かさずに照射できること、照射ヘッドの首振り機構による高精度の照射、2対のイメージング装置により患部の位置を正確に把握できるなどが特徴です。



PETを用いたアルツハイマー病の早期診断技術の開発



アルツハイマー病では、発症のはるか前から脳にアミロイドが蓄積すると言われています。先端医療センターでは 11 C-PIB という放射性薬剤を用いてアミロイドの PET イメージングの研究をしています。

〒655-0034 神戸市垂水区仲田 3-1-8-202 (垂水支部) 神戸市議員 川原田弘子事務所
TEL&FAX 078-709-8998
e-mail: happy@hiroko-club.com
URL: <http://www.hiroko-club.com>

ご相談はこちら

〒650-8570 神戸市中央区加納町 6-5-1
民主党神戸市議員団
TEL 078-322-5844
FAX 078-322-6161